

令和4年度 自己評価・学校関係者評価

オイスカ浜松国際高等学校

校訓	教育目標	教育方針
・畏敬 ・知性 ・奉仕	自然の恩恵に感謝し、国際社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する。	①「満足度・充実度・幸福度 No.1」を追求し、生徒の誰もが「入学してよかった」と満足する学校 ②感謝と奉仕の心を育み、学力と国際・環境教養を身に付け、180通りの夢の実現をサポートできる学校 ③持続可能な多文化共生の実現を目指す地域社会と協働し、SDGs精神の普及・促進に向けた取り組みを実践する学校

評価は、A（十分に成果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）で示す。

評価対象 (担当)	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
学校経営 (管理職)	日本の中学校卒業生と留学生がともに学び合う「オイスカ SDGs 教育」を展開し、いわゆる「令和の日本型学校教育」の中で、真の多文化共生を目指す「新未来型国際高等学校」を標榜すべく、理想とする教育活動を実践する。	すべての教育活動が、スクールミッションとどのように関わっているのかを確認し、教職員がその実践のために同じ意識で取り組めるような環境づくりをする。	A	スクールミッション実践のための具体的方策を年度当初に示し、その捗状況の評価は年度途中の職員会議等で行ってきた。1月には、その評価に基づき次年度の具体的方策案を教職員に示し、意見を求めた。教職員が同じ意識で取り組める環境づくりは果たすことができた。	A	建学の精神が復活してきていると感じる。生徒と教職員がその実践のために同じ意識で取り組むことができる環境づくりをしていると感じる。学校経営に苦勞した時期もあったが、教職員の頑張りには敬意を表す。
教科指導 (教務)	学習における面倒見のよさを徹底し、入学時より2ランクの学力アップを達成することで、学習面での満足度・充実度・幸福度 No.1を目指す。	基礎学力を高める授業「一般教養」の開設と併せて、進学対応の為、習熟度別授業と放課後・長期休暇中の特別講習を展開する。情報通信技術運用能力を高めるためのタブレット教育の他、授業に工夫を施し生徒の満足度向上に繋げる。	B	1学年全員に基礎学力向上のために設置した「一般教養」については、テキストを教務で準備し、各教科で指導した。テキストの選定についても、教員の意見を取り入れていく。課外講習・夏期講習ともに生徒の学力に合わせて、適した講習が実施できた。タブレットを利用した授業にも教員、生徒ともに慣れ、更に研鑽を重ね、教育効果を高める授業展開を図りたい。	B	1学年は情報通信技術運用能力を高めるためのタブレットを活用した教育ができていると感じる。今後はタブレットを使いこなすことのできる生徒の育成を目指し、学力の向上に繋げてもらいたい。
進路指導 (進路)	進路目標達成に必要な学力・技能を身に付けるサポート体制を整える。	年2回実施する進路希望調査に基づきクラス担任が個人面談を実施し適切な助言をする。そのために進路指導部はクラス担任に最新情報を提供する。	A	校内における進路ガイダンスの実施や大学・専門学校が行うオープンキャンパスへの参加など積極的に情報収集に努めさせた。また学級担任の細目な指導により生徒・保護者が満足する進路目標が達成できた。	A	3年部の職員および進路担当職員の手厚いサポートが、進路実現に繋がっていると思う。下級生の指導も充実させてもらいたい。
生徒指導 (生徒)	基本的な生活習慣を基に、「元気な挨拶」「時間厳守」「思いやりある言動」を身に付け、満足度・充実度・幸福度 No.1に向けて、面倒見のよい個別対応やサポート体制の構築を目指す。	「生きる力の育成」を重点目標に基本的な生活態度の向上を図る。規律、礼儀、マナーの向上、5S、時間厳守、マスク等の衛生管理、SNS 不適切使用防止、公共場におけるマナー、自転車通学マナーの向上を目指す。	B	各種講習会（外部委託）を通じ生徒が交通ルールや携帯マナーに関して理解を深めることができた。感染症予防に関し教室廊下の換気や個人レベルでの認識度は高いものの徹底までには至っていない所もあり、更なる改善を今度も努力していく。	B	生徒が社会のルールやマナーを身につけるまでには時間がかかると思うが、粘り強く指導してもらいたい。改善努力を重ねれば必ず良くなっていくと信じている。
部活動指導 (生徒)	顧問の熱意を生徒に伝え、ともに成長できる環境と3年間継続できる運営体制を作る。	意義のある活動時間となるよう顧問による創意工夫、生徒の活躍の場となるよう支援する。	B	日頃の活動のみならず意欲的な校外外におけるボランティア活動にも取り組むことができた。	A	対外試合での結果は出ていないが、運動部の生徒を中心としたボランティア活動への参加状況は評価できる。
健康管理 (生徒)	常に緊張感を持ち感染症予防に万全を期す。生徒が主体的に健康になるようとする意識を高める。	手洗い、マスクの着用、感染症予防に徹し他に迷惑のかからない生活態度を指導。健全な生活を送れるよう日々の健康管理に注意させる。	B	概ね感染症対策はできた。健康になるようとする生徒の行動変容を考えた時、躰のような支援方法では効果的持続的また、習慣化されないことが予想される。感染症予防は集団で行わなければ効果が期待できない。主体的な取り組みができるよう支援していく。	B	健全な生活を送れるよう日々の健康管理が重要であると考えている。今後も未知のウイルスに対する対策および支援が必要だと感じる。
寮生指導 (寮務)	寮生活の満足度を高めるために、行事やルールの見直しを継続的に行う。	年間目標「凡事徹底」の具体的な目標を月毎に設定し、理解させ実践指導を行う。居室の環境整備実現のため早期にモデルルームが完成する準備をする。	B	学期ごとの具体的な目標が徹底されなかった。コロナ感染者が男子寮、女子寮共に数人出た事が残念であった。対応については生徒、職員とも問題なく対応した。モデルルームは生徒も反応も良く、今後も増やしていきたい。	B	年間目標・学期ごとの目標・月毎の目標を設定し、理解させて日々指導していけば良いと思う。
留学生指導 (留学生)	授業や補習等を活用し日本語の学力を付け、より高い日本語能力資格の取得を目指す。校内での日本人との交流を深める。	夜間の学習時間日本語の補習を実施し JLPT・EJU 対策含日本語能力向上に努める。授業・学校行事を通じ自国以外の生徒との関係を築かせる。	B	夜間の日本語補習を予定通り実施したが、参加者に偏りがあり日本語能力獲得にも差が出た。今後よりよい方法を模索する。日本人生徒との交流もできていたが、留学生同士の交流ほどではない。今後工夫していく必要がある。	A	個人個人の能力に合った勉強方法で指導することが大切だと思う。専門学校で受け入れている留学生との交流も増やしたらいいのではと思う。
広報 (広報)	令和5年度 160名入学を達成するためにどのようなチャレンジをしていくかを思考・実践する。	オープンスクールのスタイルの刷新と部活動オープンスクールの開催。豊橋・豊川地区の中学校へのアプローチを実践する。	A	学校説明会・オープンスクールの参加者については目標の500名を大幅に超え620名を数えた。この数字が入学増に繋がることになれば、目標を達成できる。その結果、単願受験者199名となり、定員を超える生徒が確保できる見通しとなった。	A	今年度入学希望者が増えた要因をしっかりと分析した上で、次年度の募集に繋げてもらいたい。希望者増えたことは大いに評価できる。

評価対象 (担当)	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
企画・研修 (企画研修)	「指導と評価の一体化」を意識し、「観点別評価」の確立にむけての研鑽を続ける。	教員の指導改善、生徒の学習改善を進め、生徒の前向きな学習を具現化する学習評価を確立する。	B	生徒の前向きな学習のため、様々な言語活動、次の学びにつながる評価活動が展開できた。さらに多様な学びの手法を研修したい。	B	多様な学びの手法をもっと増やせたら良いと思う。募集定員確保継続には、入学後の指導が課題である。改善・工夫を求める。
防災 (総務)	実践的な防災訓練を実施する。職員・生徒向けのAED講習等を実施する。	計画的に沿った防災避難訓練の実施と懸案であったAED講習を本年度こそは実施する。	B	計画どおり防災訓練を実施した。AED講習はコロナ感染蔓延期だったため今年度も実施できなかったのが来年度は実施時期を変更し蔓延期に当たらないよう工夫した。	B	「命を守る教育」を含めたAED講習は、例外なく実施してもらいたい。
事務 (事務)	School Compliance に基づいた適切な運営を行う。来校者や生徒に親切・丁寧に対応する。	定められた手続きに準拠し、適切な事務が執行されるように事務部を運営すると共に、生徒及び来訪者に親切・丁寧に対応を行う。	B	関係諸機関からの通達を守り、実態調査等滞りなく進めることができた。訪問者へは常に親切・丁寧を心掛け対応できた。	B	訪問者に対して常に親切・丁寧を心掛けた対応ができていたと思う。爽やかな気持ちで訪問することができた。
ユネスコスクール (ユネスコ担当)	ユネスコスクールとして学校運営・学校教育・学校活動をふさわしいものにする。	令和4年度はユネスコスクールチャレンジ期間として令和5年以内に申請・国内審査通過できるように各活動を見直し、深化させる。	A	環境教育・国際理解など従来ある活動は継続してできている。今年度は未来をつくる若者オブザイヤーで内閣府特別担当大臣賞や気候変動アクション環境大臣表彰で気候変動アクション大賞受賞など環境面での成果をあげることができた。	A	今年度も様々な受賞には驚かされる。今後も継続し、ユネスコスクール審査通過に向けて努力してもらいたい。

課題・検討事項・学校運営に関するご意見等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設が全般的に老朽化してきている。学校施設改善に向けては、短期的に手を入れる箇所と長期的な事案とを精査して検討した方が良い。</li> <li>・制服のデザインを一新し学校のイメージを変え、入学希望者が増えたことは、大変素晴らしいことだと評価できる。</li> <li>・全員給食には感謝するが、育ち盛りの子どもゆえに、その内容の向上を期待する。</li> </ul>
--